

第4回 東海村地域公共交通会議 議事メモ(公表用)

【日 時】 平成26年12月15日(月) 15時30分～

【場 所】 東海村役場 議会棟 201・202 委員会室

【出席者】 (委 員) 出席 16名／欠席 5名

1. 開会(まちづくり推進課)

2. あいさつ

(会長)

- ・ 本日は、前回提示された路線バスのルート案について、引続き議論をする予定としていたが、11月20日に法律が改正されたことに伴い、スケジュールを見直す必要が出てきたということで、事務局から詳しい説明があるようなので、委員の皆様には活発な議事をお願いしたい。

3. 協議事項

(1)東海村における地域公共交通の考え方について

(設楽副村長)

- ・ 資料の説明に入る前に、私から地域公共交通に対する村としての基本的な考え方についてお話しさせていただきたいと思います。本日の会議では、ご提案いただいたルートについて、詳細なダイヤやバス停の位置など運行計画の全容についてご説明する予定でしたが、先日11月20日に改正地域公共交通活性化再生法が施行されたことに伴いまして、スケジュールの一部を見直す必要性が生じてまいりましたことから、当初の予定を変更いたしまして、新たな路線バスの運行開始を来年4月からとするとともに、デマンドタクシーも含めた新たな地域公共交通網を整備したいと考えております。詳しくはこの後担当から説明させていただきたいと思います。

(箭原課長)

- ・ それでは詳細につきまして、私から説明させていただきます。先ほど副村長からもありましたとおり、改正地域公共交通活性化再生法が施行され、自動車を中心とした社会、人口減少、少子高齢化などの要因により、地域公共交通のサービス水準が全国的に低下している現状に対して、地域をあげて公共交通の維持・改善に取り組むことは、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光、健康、福祉、環境などの様々な分野で大きな効果をもたらすものであり、従来の枠組みから脱却し、地方公共団体が中心となり、地域戦略の一環として取り組む必要があるとされたところであります。
- ・ その上で、まちづくりと一体となった公共交通の再編を推進する地域については、その実現に対して国の後押しが得られるとされております。国の具体的な支援策については、まだ公表されておませんが、村といたしましては、国の支援の有無に関わらず、現在進めております新たな路線バスの運行を実現させてまいります。得られる支援があるのであれば、積極的に取り組んでまいりたいとも考えております。
- ・ それでは、資料1に基づき、村の考え方を説明させていただきます。

【資料1に基づき概要説明】

(河野会長)

- ・ ただいまの説明に対して、質問等があればお願いしたい。

(委員)

- ・ 確認であるが、資料1にある4系統の新たなバス路線というのは、前回説明された路線ということではないのか。

(まちづくり推進課)

- ・ そのとおりである。資料1の図で、オレンジ色の路線について既存路線であり、前回提案された4系統の新規路線は、駅西については、循環線となる紫路線、日立おさかなセンターに向かう赤路線、駅東については、茨城東病院に向かう緑路線、ひたちなか海浜地区に向かう黒路線である。

(河野会長)

- ・ それでは、東海村の地域公共交通の考え方について、了解ということで進める。

(2)今後のスケジュールについて

(海野副参事)

- ・ それでは、私から資料2に基づき今後の進め方について説明させていただきます。まずポイントといたしまして、国の支援を受けるため、①改正地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会への移行と②地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画の策定が必要となることから、現行の地域公共交通会議に新委員として道路管理者や県・市町村の担当者などにも加わっていただき、本会の要綱を一部改正する予定です。
- ・ また、今後、計画策定や国への申請行為が必要となりますことから、会長職を設楽副村長に変更させていただき、現在会長、副会長を務めていただいております河野委員、岸委員におかれましては、それぞれ議長、副議長として引続き会議の運営をお願いしたいと考えております。
- ・ さらに、二点目といたしまして、繰り返しになりますが「地域公共交通網形成計画」及び「地域公共交通再編実施計画」の策定が必要となりますので、来年3月には公共交通会議において計画の承認をいただく予定であります。
- ・ 以上のような作業も必要となりますことから、新たな路線バスの運行は、来年3月運行ではなく、4月から開始いたします。
- ・ 具体的なスケジュールについては、資料をご覧くださいと思いますが、次回の会議で、新たな路線バスの運行計画についてご審議いただきたいと考えております。

(河野会長)

- ・ ただいまの説明に対して、質問等があればお願いしたい。

(委員)

- ・ 新たな委員を加えて法定協議会に移行するとの説明であったが、会議の名称も変更となるのか。

(まちづくり推進課)

- ・ 名称については、変更しない予定である。一部路線が他市にまたがることから、日立市、ひたちなか市、那珂市の担当部署にも案内していく予定である。

(委員)

- ・ 会長職を変更したいとのことであるが、具体的にはどのように進めるのか。

(まちづくり推進課)

- ・ 今後は、公共交通会議として計画や補助金を国に申請することも予想されるため、副村長を会長とす

る。ただし、村として申請となった場合は、当然東海村長名で申請することとなる。

(会長)

- ・ 法定協議会に移行するとのことであるが、改めて会長や議長、副議長の選出について議論する必要があるのか。

(まちづくり推進課)

- ・ 要項改正の必要もあることから、次回の会議において、改めて承認を得たいと思う。

(委員)

- ・ 路線の一部について、他市に入る予定であり、赤字相当分の補助は、両自治体で折半する形が一般的な考え方であるが、今回は東海村が全ての負担を負うということでもいいのか。

(まちづくり推進課)

- ・ そのとおりである。

(会長)

- ・ 特になければ、今後のスケジュール、特に法定協議会への移行、各種計画の策定、新たな路線バスの運行については、了解ということで進める。

(3)その他

(まちづくり推進課)

- ・ スケジュールについて若干補足すると、今回施行された改正法には地域公共交通網の再編が新たに位置付けられており、今回の取組みはそれに基づくものである。様々なモードの公共交通を組合せ、乗り継ぎポイントなども整備した上で、交通網を再編することになるため、まずは来年4月から新たな路線バスの試行運転を6ヶ月間実施し、その後、10月から既存の交通も含めて公共交通網を整備することになる。そういった内容を再編実施計画に盛り込むことになる。
- ・ 国の支援策については、まだ公表されていないためわからないが、今後は情報収集に努め、得られる支援については積極的に獲得していきたい。

(委員)

- ・ 1月の公共交通会議で新たな路線バスの運行計画を承認した後、国への許認可申請となるだろうが、時間的には間に合うのか。

(委員)

- ・ ある程度の準備は既に進めており、公共交通会議で承認が得られた申請内容であれば、時間的には問題ないと考えている。

(委員)

- ・ 国土交通省が作成しているパンフレットが添付されているが、今回のポイントは、路線バスなどの沿線地区に、より多くの方に住んでもらおうという方向性であり、長い目で見たときに今回の取組みはその方向性とも合っていると思う。

(委員)

- ・ こういった取組みで今後重要となってくることは、いかに住民に利用してもらうかということであり、乗車促進やPR策が大切となるが、現時点で想定している計画があればお聞きしたい。

(まちづくり推進課)

- ・ 4月の運行開始にあわせ、既存公共交通も含め、利用方法や路線図、ダイヤなどの情報を盛り込ん

だ持ち運びが可能なパンフレットを作成し、全戸配布する予定である。

- ・ 運行開始後についても、教育委員会と連携した子どもたち向けのバス乗り方教室や自治会などと連携したバス乗り方教室なども積極的に企画していきたい。
- ・ 今回の沿線に位置する事業所についても利用促進のPRを積極的に展開していきたい。
- ・ 新たな路線バスの整備にあたっては路線バスのラッピングや車内借上げなども検討していきたい。
- ・ 一部他市にまたがる路線については、他自治体の公共交通との接続ポイントを設定し、観光的な側面から東海村に人を呼び込んでいきたいと考えている。

(委員)

- ・ バス停については、次回の会議で改めて協議するとの認識でいいのか。

(まちづくり推進課)

- ・ そのとおりである。

(委員)

- ・ ネットワークの構築という観点から、他自治体で運営している公共交通との乗り継ぎができるような運行計画の検討をお願いしたい。

(委員)

- ・ 基本的には東海駅発着を中心としてダイヤを組む関係上、難しくなる部分もあるが、可能な限り接続できるように配慮する。

6. 閉会(まちづくり推進課)

- ・ 次回の会議では、新たな路線バスの運行計画を中心に議論する。開催時期については、1 月中旬から下旬を予定している。